

1 自己評価及び外部評価結果

【事業所概要(事業所記入)】

事業所番号	3290800063		
法人名	医療法人社団 水澄み会		
事業所名	グループホーム もやいの家ひきみ		
所在地	島根県益田市匹見町匹見イ50-1		
自己評価作成日	平成26年2月25日	評価結果市町村受理日	平成26年4月3日

※事業所の基本情報は、公表センターページで閲覧してください。(↓このURLをクリック)

基本情報リンク先	http://www.kaigokensaku.jp/32/index.php
----------	---

【評価機関概要(評価機関記入)】

評価機関名	株式会社応援団
所在地	島根県浜田市相生町3948-2相生塚田ビル1階103号
訪問調査日	平成26年3月11日

【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】

・地域の保育所、小中学校との交流を昨年以上にし、地域の方と利用者の方が交流する場をより多く設ける事に力を入れております。
 事業所周辺地域の特性として、同一地域の結びつきは強いものの、他地域との交流は比較的に浅く、事業所の存在を周辺地域に広めにくい状況にありながら、
 ・健康増進の為に体操やレクリエーションに力を入れ体調を崩さない体づくりに取り組んでいます。
 ・職員の育成においては、内部、外部の研修に力を入れ一人ひとりの職員が成長できるように取り組んでいます。

【外部評価で確認した事業所の優れている点、工夫点(評価機関記入)】

事業所の所在する地域は、高齢者が多く認知症に対する理解も決して高くない状況のなか、地域資源である子供会、保育所及び小学校の園児、児童との交流を通じて、その親御さんやご家族に事業所の存在をアピールし、認知症への理解を進めている。
 職員は、環境、接遇及びケアについてそれぞれチームを作り、それぞれの課題に取り組み自己評価を繰り返すなか、年1回であった家族会を年2回とし、利用者はもちろん職員との交流を深める機会を増加させ、又2ヶ月に1度利用者の近況を写真付のお便りとして発信するなど、遠方のご家族が多い状況のなかで、電話中心の情報共有からご家族が利用者の日頃の暮らしがより理解できる工夫を行いご家族の安心へとつなげている。

V. サービスの成果に関する項目(アウトカム項目) ※項目No.1~55で日頃の取り組みを自己点検したうえで、成果について自己評価します

項 目		取 り 組 み の 成 果 ↓該当するものに○印	項 目		取 り 組 み の 成 果 ↓該当するものに○印
56	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる。 (参考項目:23,24,25)	○ 1. ほぼ全ての利用者の 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんど掴んでいない	63	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができている。 (参考項目:9,10,19)	○ 1. ほぼ全ての家族と 2. 家族の2/3くらいと 3. 家族の1/3くらいと 4. ほとんどできていない
57	利用者と職員が一緒にゆったりと過ごす場面がある。 (参考項目:18,38)	○ 1. 毎日ある 2. 数日に1回程度ある 3. たまにある 4. ほとんどない	64	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている。 (参考項目:2,20)	○ 1. ほぼ毎日のように 2. 数日に1回程度ある 3. たまに 4. ほとんどない
58	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている。 (参考項目:38)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	65	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりの拡がりや深まりがあり、事業所の理解者や応援者が増えている。 (参考項目:4)	○ 1. 大いに増えている 2. 少しずつ増えている 3. あまり増えていない 4. 全くいない
59	利用者は、職員が支援することで生き生きとした表情や姿がみられている。 (参考項目:36,37)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	66	職員は、活き活きと働いている。 (参考項目:11,12)	○ 1. ほぼ全ての職員が 2. 職員の2/3くらいが 3. 職員の1/3くらいが 4. ほとんどいない
60	利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている。 (参考項目:49)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	67	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う。	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない
61	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている。 (参考項目:30,31)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	68	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う。	○ 1. ほぼ全ての家族等が 2. 家族等の2/3くらいが 3. 家族等の1/3くらいが 4. ほとんどできていない
62	利用者は、その時々状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らしている。 (参考項目:28)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない			

自己評価および外部評価結果

[セル内の改行は、(Altキー) + (Enterキー)です。]

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
I. 理念に基づく運営					
1	(1)	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義を踏まえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	理念については、事業所内に掲示し、理念を目指して、事業所目標、個人目標を立て、実践を行っている。	会議の中で理念について話あいを行う。職員にも理念は周知されており、今年度より導入した接遇チェックシート等を活用して振り返りを行い、実践につなげている。	
2	(2)	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	地域行事への参加、地域の子供会や保育所、小中学校との交流を定期的に開催している。	子供会、保育所及び小学校のほうから交流のお声をかけていただけるようになった。子供たちとの交流を通じて行事の際には、その親御さんとの交流も広がっている。	
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	保育園、小中学校との行事を行う際には、保護者や地域の方にも案内し施設行事に参加して頂き、施設の様子を見ていただいている。		
4	(3)	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	活動状況等の報告や行事に参加して頂いたりしながら、ご意見をいただき、サービスの向上に努めている。	職員も順次会議に出席し、直接意見を聞くようにしている。ご家族が遠方の方が多く、定例の会議への出席は難しいが、家族会では運営推進会議の内容を伝え、意見を頂くようにしている。	
5	(4)	○市町村との連携 市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くように取り組んでいる	地域ケア会議に参加したり、運営推進会議の場で市担当者の方に直接伝えながら、取り組んでいる。	運営推進会議では、市役所支所の方が出席されるが、毎月実施される地域ケア会議には市役所本所の担当者や地域包括センターの方の出席があり、連携を深めている。	
6	(5)	○身体拘束をしないケアの実践 代表者及び全ての職員が「指定地域密着型サービス指定基準及び指定地域密着型介護予防サービス指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	玄関や居室などの施錠は行わない。認知症の学習会を通じて、帰宅要求のある利用者に対しても一緒に付き添う等の支援を行っている。	法人内の勉強会を通じて身体拘束をしないケアについて職員に周知している。職員も言葉による拘束等に互いに注意する等、身体拘束について注意を払っている。	
7		○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止関連法等について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	高齢者虐待の学習会等を通じて知識を深め、虐待が発生しないように取り組んでいる。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
8		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	権利擁護については、外部、内部研修に参加し学ぶ機会を持ち必要に応じて活用出来る様に取り組んでいる。		
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又はや改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	契約時には、ゆっくりと時間を取りながら、疑問点などを確認させていただき、不安なくご利用いただけるよう取り組んでいる。		
10	(6)	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員並びに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	年1回のアンケート、家族会等を通じて家族より意見、要望を聞く機会を設けている。	アンケートや家族会では、意見等が提示されることは少ないが、本年度より家族を年2回行うこととしたことにより、ご家族と担当職員との交流内容が深くなった。	
11	(7)	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	毎月の会議や半期に1度の面談で職員の意見や提案を聞きながら運営している。	伝達ノートに職員の気づきを記録しておき、日中のカンファレンスで協議するなど管理者をはじめ職員全体で個々の意見の反映を行っている。	
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	資格取得の支援、個人目標の確認面談を実施しその結果を給与に反映するシステムがある。		
13		○職員を育てる取り組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	職員の経験や力量に合わせた、外部研修、内部研修の参加を行っていただきながら、育成を行っている。		
14		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会をつくり、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	益田圏域のグループホーム交流会に参加しながらネットワークづくりやサービスの質の向上に繋げている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
Ⅱ.安心と信頼に向けた関係づくりと支援					
15		○初期に築く本人との信頼関係 サービスの利用を開始する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	事前面談の際に出来るだけ時間を設け、本人と関わる時間を持ちながら、不安なことや要望を聞くことが出来る様に取り組んでいる。		
16		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスの利用を開始する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	事前面談や電話等により、不安な部分や要望等を伺いながら関係づくりに努めている。		
17		○初期対応の見極めと支援 サービスの利用を開始する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	その時に担当とされている、相談員やケアマネ等に情報提供して頂きながら、本人にとって必要な支援を見極めて利用の開始を行っている。		
18		○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	本人の思いを大切に、趣味や経験を生かした生活が出来るようにしながら、共に生活をしていける関係を築いている。		
19		○本人を共に支え合う家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場に置かず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	家族会や定期的な手紙等により近況の様子をご報告することにより、家族と共に支えあう関係を築いている。		
20	(8)	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	自宅までのドライブや家族が働いている場所までの外出等、なじみの関係、場所が途切れないように関係性の継続を行っている。	利用者のご自宅の近所の方が来訪されることもあり、ご友人やお孫さんとの年賀状のやり取りなども支援を行っている。	
21		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せず利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	一人ひとりの生活スタイルを尊重しながら、職員とお客様と一緒にお茶を飲む時間を持っている。また、お客様同士の関係性にも配慮し支援を行っている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
22		○関係を断ち切らない取組み サービス利用(契約)が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	サービス終了後の関係も大切にするように、契約終了まで誠意を持って関わっている。また、必要に応じて終了後も電話等で相談を行っている。		
Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント					
23	(9)	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している。	本人の意向の把握が困難な場合には、家族会等を通じて、ご家族に聞く機会を設け、本人本位のサービス提供が出来る様に支援している。	意思表示が可能な利用者は半数程度あり、ご本人のご希望に沿うようにしている。家族会を年2回実施することにより、ご家族の意向の把握にも努めている。	
24		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	サービス開始までに、生活歴や馴染みの暮らし方等を把握し、利用開始後も生活の中での会話や行動から一人ひとりのケアに繋げている。		
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	日常生活の中で心身の状態を把握し、その時に必要な支援を行っている。		
26	(10)	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	日々の生活やご本人、ご家族の意向を確認しながら必要に応じて、モニタリング、評価を行い、介護計画書を作成している。	担当職員が電話や面会時を利用してご家族の意向を確認し、モニタリングやプラン作成を担当職員提案の基、職員全員で協議して介護計画を作成している。	
27		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	日々の様子やケアの記録を基に、職員間で情報の共有を行いながら、介護計画の見直しに生かしている。		
28		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	ご本人・ご家族のその時々ニーズに出来るだけ対応し、受診等においても柔軟に対応を行っている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
29		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	併設の通所介護や保育所、小中学校の生徒との交流等を通じて、暮らしの中に楽しみが持てる様に支援している。		
30	(11)	○かかりつけ医の受診診断 受診は、本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	ご本人・ご家族が希望される医療が受けられるように、主治医と連携を取りながら、専門医への受診がスムーズに行えるように支援している。	事業所協力医が主治医となり、月2回往診を行っている。遠方のご家族が多いため、専門医への受診対応は職員で行うことが多いが、トラブル等なくご家族とも情報共有がなされている。	
31		○看護職員との協働 介護職員は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職員や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	日々の関わりの中で体調の変化を把握し、主治医等に報告相談を行い、必要に応じて専門医に受診している。		
32		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、また、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。又は、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている。	年1回医師会病院の看護師の訪問には積極的に意見交換をおこない関係の構築を行っている。また、入院時には、地域連携室等の相談員と連携を取り退院に向けての準備を行っている。		
33	(12)	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所でできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	ご本人様の状態の変化に応じてご家族様や主治医と連携を取り、出来るだけ継続して生活できるようにチームで取り組んでいる。	入所時に事業所での対応について説明した上、1年に1回はご家族の意向を確認している。昨年、できるだけ事業所で対応して欲しいというご家族の意向から死亡日の前日まで事業所で過ごされた利用者もあった。	
34		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	年に1回消防署の応急手当訓練に参加し急変時等に備えて実践力を身につけている。		
35	(13)	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	年2回の避難訓練を行いながら、災害時には実践できるようにしている。また、災害時等については運営推進会議等を通じて避難災害時についての対応等を協議している。	食品をはじめ必要消耗品等の備蓄も計画的に行っている。近隣にある特別養護老人ホームとも災害時の対応について連絡を図っている。	

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援					
36	(14)	○一人ひとりの人格の尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	接遇の勉強会を行い、一人ひとりの尊厳を大切にしている。また、職員一人一人が接遇についての振り返りを行っている。	接遇チェックシートを導入し、自己評価を行っている。排泄の際の声かけやトイレ・居室へ入室する際のドアのノックなど基本的なことも会議で再確認を行っている。	導入された接遇チェックシートについて他者評価等の手法も取り入れながら、同シートの活用により、さらなるサービス向上を目指して欲しい。
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	ご本人の意向を確認しながら、自己決定できるように働きかけている。また、表情や行動などを観察し出来るだけ希望しておられる支援が出来る様に取り組んでいる。		
38		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	日常生活の中でご本人のペースを大切にしながら、過ごして頂けるように支援をしている。		
39		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	ご本人の希望を聞きながら服を選んでいただいている。また、希望に沿った髪が出来る様に、ご家族に相談しながら髪染め等を行っている。		
40	(15)	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	食事の準備や片づけを一緒に行いながら、一人ひとりが力を発揮できるように支援しています。	職員が1ヶ月分のメニューを作成し、管理栄養士のチェックを受けている。具体的なメニュー内容について、利用者から希望を伝えられることはないものの、季節を感じられるものや煮物、お魚料理を多くしている。	
41		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	好みの飲み物等を把握したり、好みの食べ物を把握することにより栄養や水分等に気を付けている。また、状態に合わせた、食事形態で提供させていただいている。		
42		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	食前に口腔体操を行い、食後は口腔ケアを行って頂くように声掛けを行い、介助の必要な方には介助を行っている。夜間は義歯をお預かりし洗浄している。必要に応じて歯科受診時に口腔ケアを行っている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
43	(16)	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立に向けた支援を行っている	排泄のパターンを把握し、必要時に誘導を行ったり、ご本人の行動や表情等によりトイレの声掛けを行い排泄の失敗の軽減に努めている。	排泄チェック表を確認して、トイレ誘導の声掛けを行っている。基本的には、トイレでの排泄を支援している。	
44		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	排便のチェックを行い、必要に応じて腹部マッサージ等を行っている。また、食事面では、食物繊維や牛乳、ヨーグルトなどを朝食に取り入れ便秘予防に努めている。		
45	(17)	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めてしまわずに、個々に応じた入浴の支援をしている	主に午後の入浴が多いが、状況や希望に応じて入浴の支援をおこなっている。	利用者の希望により入浴は2日に1回程度となっている。衛生管理の兼ねた入浴剤等を使い入浴を楽しみ、皮膚の衛生にも気を配っている。	
46		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	ゆっくり休んでいただけるように、その方の生活習慣に合わせて支援し、状況に応じて和室で休んでいただいたりしながら安心して休息が出来る様に配慮している。		
47		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	お薬表にて内容を確認し把握している。お薬の変更があった場合には、変更になった薬について全員で共有し確認している。		
48		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	外出支援や生活の中での役割を持っていたきながら、日々の生活が楽しく過ごせるように支援を行っている。		
49	(18)	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。また、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	天気の良い日には、外に散歩に出かけたり、ご本人の希望で自宅周辺までドライブに出かけたりしている。また、施設行事として秋には遠足を利用者全員で行ったりしている。	近所への散歩の際に出会う方には、こちらから声をかけている。週2回程度はドライブがてら益田市内に買い物にでかけ、季節ごとに初もうでやさくらやかきつばた見学にもでかけている。	

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
50		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	ご本人が財布を持っておられる方については、出来るだけ、ご自分でお支払等を行われるように支援している。		
51		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	ご家族からの電話があった場合は出来るだけご本人とお話して頂いたり、ご本人からの電話など希望があった際には、積極的にお電話させていただき、お話が出来る環境を作っている。		
52	(19)	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激(音、光、色、広さ、温度など)がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	行事時の写真や今年の干支の作品などを掲示したり、季節等が分かるように空間づくりを行っている。	訪問時、事業所玄関前に職員より寄贈された雛人形が飾られており、季節を感じられる雰囲気となっていた。昨年訪問交流のあった小学生の作文や当時の交流風景の写真などが食堂に飾られ、子供たちの笑顔が利用者の癒しとなっている。	
53		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	共有空間においては、馴染みのお客様と過ごすことが出来る様に席の配置に配慮し、安心して過ごせるようにしている。		
54	(20)	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	ご本人が使っておられた物などを居室に配置して頂いたりし、ご本人にとって過ごしやすい環境を提供できるようにしている。	昨年末に実施した家族会で、参加されたご家族とともに居室の大掃除を行い、利用者にとってより過ごしやすい環境となった。	
55		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」や「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	トイレや居室までの目印を付ける等、ご本人の状態に合わせた工夫を行い安心して生活が出来る様にしている。		